

「株式会社 姫路シティ FM21」

第 39 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成22年3月13日(土曜日) 午後1時30分～午後3時
2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム
3. 出席状況
 - 1) 委員総数 11名
 - 2) 出席委員数 8名
 - 3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	梅宮 功	井上 重義
岩成 孝	金山 光鎬	平間 由香利
宮本 節子	柳谷 郁子	
 - 4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

大谷 昭仁	岸田 直美	衣笠 愛之
-------	-------	-------
 - 5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
山南 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)

4. 議題

資料をもとに説明を行う。

(1) 事業報告

- ・平成22年1月度からの事業報告

(2) 事業計画

- ・4月度番組編成について

5. 審議内容

事務局より資料説明のあと、質疑応答を実施した。

- 副委員長 「トクするラジオ FMゲンキ」との事だが、その意味は？
事務局 「サイマルラジオを通してネットで聴ける」「ジャティックからの交通情報が聴ける」「2局ネットでターザン山下の番組が聴ける」という部分をメリットとして提供したい。
- 副委員長 サイマルラジオについて。放送している時間だけ聴けるのか？ネットラジオならばいつでも聴けると思われる。周知に力を入れないといけない。グローバルな発信というよりもローカル情報の発信を目的とするということか。
- 事務局 自社制作の部分が聴ける。これまで放送エリアでありながら聴きにくいところでも、聴ける手段を提供するというのが目的である。全国に発信するというのが目的ではない。
- 副委員長 これまでFMゲンキが聴きにくかった地域に対してどのように告知していくのか？
事務局 ラジオでラジオの宣伝をしても難しい。しかし神戸新聞の日曜日にPR欄があるので、そこを利用したい。また8月にはラジオ新聞の全戸配布が予定されているので、そこでもPRしたい。
- 副委員長 「広報ひめじ」などでPRしてもらえないのか？
事務局 「広報ひめじ」には行政情報のPR欄があるので、そこに「FMゲンキはインターネットからも聴けます」等と記載してもらえるように働きかけた。
- 委員 録音を繰り返して四六時中聴けるということにできないのか？
事務局 おしゃべりの部分だけなら権利の問題はないが、CDをかけると権利処理が煩雑になってくる。サイマルラジオは放送を同時にネットでも流すということで許可されている。
- 委員 放送可能な時間と不可能な時間があるということは、ネットから聴こうとした人が不可能な時間にあたると、次は聴いてもらえない。
事務局 そこは、FMゲンキが誰を対象にするか？ということである。他社の事例では、日中の番組をまるごと夜間に再放送して、サイマルに対応している局もある。しかし、今J-WAVEなどをたのしみにされている方に対して、サイマル放送のためにすべて再放送にしてもらおうということにはできない。
- 課長 4月以降はある程度まとまった時間を自社製作でつなげていきたいと考えている。
- 委員 インターネットで聞こうという人は夜の方が多い。
課長 日中にゲストコーナーが多いので、相当難聴対策には活用できる。
事務局 例えば「飛び出せ街の元気人」に知り合いがでるが入らない・・・という話がある場合、今は対応できない。しかし、「パソコンをお持ちでしたら聴けますよ」と言うことができる。ポッドキャストという手段

もあるが、アップロードに手間がかかる。リアルタイムで聴けるメリットは大きい。「家で入らない」という方に対して、どういう方法があるのか？ということで、サイマルラジオを提供したいと考えている。

委員 飛び出せ街の元気人など、繰り返しの放送はあるのか？

事務局 本放送が午後1時15分～、再放送が当日の午後6時30分～流れている。

委員 ケーブルテレビならば、3週間ぐらい繰り返し放送されている。だから、見る人が増える。一般の人が出演する番組はできる限り繰り返したほうが良い。

事務局 ケーブルテレビは、6時間分ぐらいの番組をつくったら後は再放送ばかりである。ラジオ、特にFMゲンキは生放送を中心にしているので、ニュースや天気も言えれば、火災情報も言える。夜間についても、東京からの配信の時間帯ならば、突発的なニュースも放送されている。その時間帯の番組をすべて中止して「再放送ばかりの時間にする」ということは、リスナーのメリットになるのかどうか。FMゲンキとしては、元気人については2回放送しているので、それ以上は難しいと考えている。

委員 聴き応えのある方が出演しているが、ききのがすこともある。全部は無理かもしれないが一部だけでもピックアップできないのか？リスナーは必ず増える。

事務局 ピックアップはできない。判断ができない。

委員 番組のピックアップである。

事務局 飛び出せ街の元気人は、月～土まで1回30分やっているの、3時間分になる。ということは、再放送しようと思えば、夜8時から11時までの番組を取りやめて、3時間分を毎日同じものを流していくということになる。その様な番組作りがよいのか？ご意見をいただきたい。FMゲンキとしては、同じものが毎日流れているということは、リスナーのメリットが減少すると考えている。実際に、1月から高校生が出演する番組を夜間に再放送を始めたが、「同じものをなぜ放送するのだ」という苦情もいくつか頂いている。リアルタイムの放送を放棄して、再放送を増やすということは難しい。しかし、解決手段としてインターネットなどを使えることができればよいのではないか。コストがかかるので今はできないが、ゲストコーナーのトークの部分だけをネットで放送するという事は可能だろう。

ラジオで再放送しても結果的に「夜11時に聴けるわけない」などということになるだろう。

委員 今は毎日違う方が出演しているが、同じ時間帯で3日間再放送などはできないのか？自分の子供や孫が出演したが聞きそびれた。という声を2-3件聞いたことがある。出演者が3分の1になるとしても、そのほうがよいのでは？

事務局 現状毎日違う方が出演してくださっている。1人が2日間にわたっておしゃべりいただくと、市民が出演できる機会が半分になる。それが3日にな

ると、3分の1になる。それは市民参加を謳う放送局としてよいのか？さらに、ラジオの特徴として聴取時間帯に習慣性があるが、仮に同じ話を同じ時間に複数回再放送したとしたら、リスナーのにとってのメリットはないのではないか。

委員 3日続けてということではない。1週間分を3回繰り返したら1週間に1度ではないか。

事務局 結局、先週と同じものが流れることには変わらない。

副委員長 どこに入れても繰り返しということでは同じである。

事務局 一人でも多くの市民に出演していただきたいと考えている。

局長 ゲスト出演者はそれなりに聞いている方がいらっしゃるって、聞き逃した時に再放送があれば聴けるということだが、他にもゲストコーナーがありそれらは1回限りである。元気人については、提供があるので2回放送している。出演した人には録音をお渡ししている。それを回して聴いていただくなども可能だろう。その中で、さらにそれを増やすということであれば、他の番組とのやりくりで難しい。その他に、姫路市からのお知らせということでイベント情報やインフルエンザなどの情報、防災関連の情報があるが、それらについては繰り返し放送している。委員から話があることがリスナーのメリットになるのかどうかということは、研究が必要であると考えている。

副委員長 ラジオとケーブルテレビは基本的なものがちがう。ケーブルテレビは繰り返し放送するのが特徴で、速報性は放棄している。ラジオは生放送が中心で速報性を重視している。では再編集して流せばいいのではないか？という話もあるが、著作権を考慮して音楽を省くと、面白くなることが多い。今後の課題ということでお願いしたい。

委員 ポッドキャストの扱いはどうするのか？

事務局 現状アップロードしているものについては、サイマルを始めてもそのまま残す予定である。

委員 ゲストコーナーもポッドキャスト放送すればよいのではないか。

事務局 放送番組をポッドキャストにするのはそれなりの手間がかかる。元気人は30分番組なので、それを編集しアップロードするとなれば、1時間ぐらいかかってしまう。1週間に6回あるので、6時間以上の人件費が必要である。現状の番組だけでも負荷にはなっている。ただし、それらをいかに収益に結び付けていくか？ということを考えることも必要だと思う。

副委員長 ネットに上げるとグローバルなコンテンツになるので、おしゃべりはネットに上げてでも評価されにくい。サイマルラジオ・ポッドキャストそれぞれに特徴がある。

事務局 再放送があるということで、ゲストさんが警戒されるという話も聞いたことがある。もう一度流れるというのがプレッシャーになるようだ。ポッドキャストで音楽はNG。3月15日から広域のラジオがネット放送を始めるが、地域制限がかかっている。3月15日から広域のラジオがネット放送

を始めるが、地域制限がかかっている。それだけ権利や取り決めというものがネットは厳しいという実感がある。

委員 「トクするラジオ」というキャッチフレーズは良いが、実際に物がもらえるという印象になるのではないか。経費が伴うとは思いますが、わずかな経費でリスナーにトクを届けるアイデアはないか。

局長 リスナープレゼントということで、メールやアンケートでやっている。応募者には抽選でプレゼントを差し上げることもある。特にフリーマガジンでは、アンケートハガキをつけており、抽選で色んなものが当たる。知り合いからも「当たった」という声を聞いている。フリーマガジンの中にはクーポン券もついているので、ぜひ利用していただきたい。

副委員長 「聴いた」ということでもらえるというのが良い。

事務局 「FMゲンキを聞いた」で安くなるとか、「入場券があたる」ということをよくやっているが、なかなか広がらない。ラジオでプレゼントを告知して、そこで応募するというアクションを行っていただいて・・・ということについては研究が必要。携帯でもパソコンでもFMゲンキのホームページは見れるが、応募者が限られてきてしまう。アクションを起そうというプレゼントを提供できていないのかもしれない。物理的なメリットとなると課題があるが、精神的メリットとして捉えていただければ。

委員 内容で得をするということであるから、番組の充実に取り組んでほしい
事務局 そういう意味では、今年は何んといっても黒田官兵衛である。7月1日にフォーラムを予定している。

局長 社長からも地域の活動についてFMゲンキも取り組めないかとの課題を受けていたが、黒田官兵衛ということで頑張りたい。

副委員長 事前の盛り上げはあるのか？

局長 取り掛かりとして、4月1日発行のフリーマガジンにて、対談記事を取り上げている。また観光ナビポートから放送する番組の中でも取り上げていく予定である。

委員 7月1日は平日だが意味はあるのか？

局長 土日という考えもあったが、7月1日にした。280名の参加者は公募で行いたい。

委員 NHKは大河ドラマの誘致がきて大変らしい。

委員 30件以上あると聞いている。

副委員長 交通情報について。これはジャティックから情報を購入して、FMゲンキで話すのか？であればお得な付加情報をつけることができないか。例えば、「今日は〇〇祭りだから渋滞している」など、地域の情報と絡めることができれば。

事務局 花火大会や観光シーズンなどはフォローできると思うので、検討してみたい。

副委員長 2局ネットはどうやって行うのか。

事務局 BAN-BANラジオが制作する音声をFMゲンキのスタジオで受けて放送する。

したがって、この時間帯はBAN-BANでもFMゲンキでも同じものが流れるということになり、両方の局が聴けるところは、周波数を変えると同じものが聴ける。2局ネットだと、明石から相生ぐらいまで入るので、ゆくゆくは営業にも結び付けていきたい。

- 委員 最後の話のなかで、黒田官兵衛のフォーラムをされるということであるが、あい Messe よりも市民会館や文化センターなどもっと大きなホールでやったほうがいいのではないか？
- 局長 姫路市と共催で実施するが、双方で協議の上あい Messe と決めた。300人ぐらいが確実と考えている。市民会館で800人だが、半分しか入らないとちょっと・・・なので。
- 委員 280人ぐらいは集まるという前提があるのか？
- 副委員長 人集めは難しい。
- 委員 第2弾、第3弾といけたらよい。
- 委員 第1弾はあい Messe で良いと思うが、本来は市民会館でも埋まるぐらいのものである。顕彰会の会員も300人ぐらいいるし、播磨学講座を行ったときは400人の開場が埋まったこともある。
- 局長 第1回ということで、確実なところで押さえてみた。反響があれば、来年はFMゲンキも開局10周年なので、そのときに考えてみたい。
- 課長 本日で委員が最後となるので、一言いただきたい。
- 委員 貴重な場に呼んでいただいて嬉しく思う。短い間だったが、良い経験となった。
- 課長 次回は6月の予定である。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成22年3月28日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時15分～17時45分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)

以上